



国崎クリーンセンター 安全・安心・信頼のごみ処理施設を求めて...

国崎クリーンセンターで起こった人的事故(不適合事象)

	区分	事故内容
2022年8月24日	3	チップソー(高速回転切断機)による負傷
2023年6月2日	2	脚立から転落による両手首骨折
2025年5月19日	3	手選別中の針差し事故(2名)

不適合事象～本来あるべき状態とは異なる状態、本来行うべき行為とは異なる行為、あるいは要求事項を満たしていないこと。

区分1(重度)、2(中度)、3(軽度)、4(その他)と4段階で設定。

して委託しています。JFE職員だけでなく、委託先の労働者を含め54人が現場で従事されています。施設組合として、要求水準書で求めている資格や免許保持、経年数の掌握、労働者の賃金や福利厚生、労働環境については、JFEから報告を受け確認しているのとことです。

再委託(下請け)については、組合へ通知を行うこととしているが、組合としての実態把握は十分ではないので、労働環境調査の取り組みを調整中。労働者からの相談は今まで受けたことがないが、相談窓口設置をすべての労働者に周知していきたいとの答弁でした。

私(黒田)は、当初から市に公契約条例の制定を求めています。全国では、下請けなどでも最低賃金の確保など制定が進んでいます(現在95自治体)。その内容を網羅するような取り組みを施設組合に対しても求めました。

特に、再委託先になればなるほど、公務中の事故への対応や勤務継続などの実態、賃金を安くするために熟練者の雇用を打ち切るなど全国的には様々な問題が生じていますから、注視していく必要があります。

労働者が守られているか

私(黒田)は、①「包括管理運営業務」に必要な職員配置が行われているか(JFE職員だけでなく委託先職員も含む)、②人的不適合事象についての原因究明や是正・改善について、③灰溶融炉廃止を含む長寿命化総合計画の基幹的設備改良工事着手についての情報提供について、3項目で一般質問を行いました。

また、不適合事象の区分において、入院か否かが中度・軽度の分け方になっていますが、針刺し事故のように、入院しなくても予後観察が必要な事故の区分は見直すべきではないか、専門家としっかり相談して対応するよう求めています。

灰溶融炉廃止にむけて

ダイオキシン問題解決のため、日本一の排ガス基準を堅持できると設置された灰溶融炉が、12月いよいよ廃止になります。

灰溶融炉の廃止によって、排ガス量が減るので環境負荷は減る。しかし、焼却灰が増えるため搬出のための運送・トラック台数が増えるとい

うことが起こるので注視していくと答弁、今後、確認していきたいと考えています。

情報提供、住民への周知を

2009(H21)年4月稼働から18年目をむかえ、当施設の長寿命化・改修などを含む工事ははじまります。

灰溶融炉廃止を含め、歴史的経過を大切にしながら、施設周辺住民への情報提供・周知や意見収集が

これから十二分に行われること、1市3町住民への情報提供・説明責任も求めています。

私たちの日常と切っても切れないごみ処理、ごみの減量だけでなく、

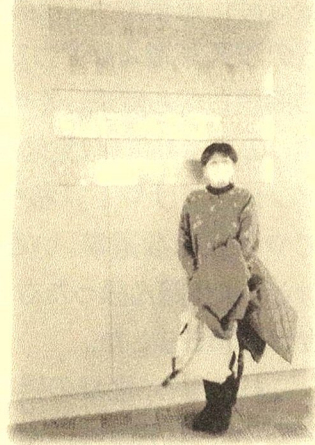
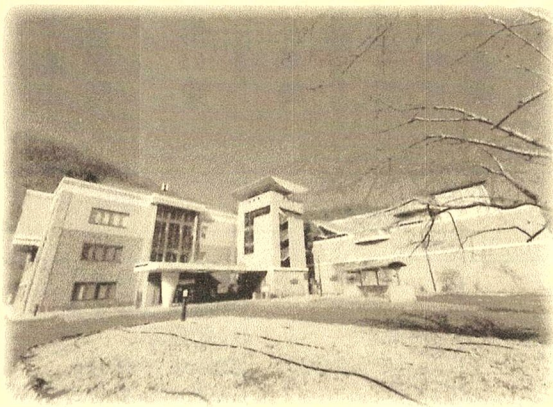
国崎CCでは、受付や運転管理、施設の保全や環境管理などを一体的にJFEに包括管理運営業務と

公契約上の責務拡大を

国崎CCには、針刺し事故のような感染が危惧される事故に特化したマニュアルがなかったため、設置を求めてきたところ、現在仕上げの段階で、医療機関との調整を

感染症対策マニュアル設置

国崎CCでは、受付や運転管理、施設の保全や環境管理などを一体的にJFEに包括管理運営業務と



病院視察へ 100周年 製鉄記念八幡病院

1月28日、市立病院改革調査特別委員会で、北九州市にある「製鉄記念八幡病院」の視察に行ってきました(写真右上2枚)。

昨年1月、北九州 DX 大賞・グランプリを受賞、1900年官営製鉄所付属病院として設立されてから100周年をむかえ、地域社会への健康啓発活動など地域社会に貢献できる病院をめざしている病院です。

今回の視察目的は「DX 戦略の推進」ということで、①情報システムに係る組織体制の整備・強化、②IT 人材育成・人材の確保、③システム基盤の構築・連携強化、④職員のITリテラシー向上と組織文化の変革、という観点で、具体的な事例報告を交えてお話しを伺うことが

できました。DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、単なるIT化やデジタル化とは異なり、企業のビジネスモデルや組織文化そのものを変革する取り組み。

院内において、モバイル電子カルテや「NEWTOMS Mobile」の導入により、病棟業務の負担軽減や医療の質向上を目指されています。

事務的軽減だけでなく、看護師の移動回数や病室(患者)滞在時間を調査し、導入によって、医師や看護師が患者に直接関わる・向かい合う回数・時間が増えているとのことでした。

また、地域医療連携システム「さらくらネット」の導入・活用に76施設が参加(総合病院、開業医などが、入退院や家庭の後方支援など実施)施設数も登録数も増え続けているそうです。

医師は、しっかり診療を行い、看護師は、患者の心のケアを含め患者に向かい合う、情報を共有して、地域連携していくシステムが職員一丸となって行われているとのことでした。

働き方改革としての取り組みが専門家を入れて組織として構築、生成AI導入や事務作業の効率化・集約化などロボット導入など伝えてもらいました。ビッグデータ管理などもっと話を伺いたかったのですが、時間が足りず残念でした。